平成２６年度香川県麦づくり推進研修大会　資料

平成２６年８月４日（月）

香　川　県　農　業　再　生　協　議　会

平成２６年度香川県麦づくり推進研修大会　次第

１．開　　会

２．あいさつ

３．平成２５年播き香川県麦作拡大コンクール表彰式

４．研修内容

（１）「平成２６年播き麦の生産振興について」
（香川県 農政水産部 農業生産流通課 課長補佐　大山 興央）

（２）「平成２６年播き麦の需給動向及び生産拡大に向けた取組方針について」
（香川県農業協同組合 営農部 農産販売課 課長　北岡 泰志）

（３）「麦作の基本技術について」
（香川県 農政水産部 農業経営課 課長補佐　藤田　究）

５．基調講演
「全国へ広がる『さぬきの夢』小麦粉。その新しい『食と健康』の世界」
（講師：香川県製粉製麺協同組合　理事　吉原良一　氏（吉原食糧(株)））

６．質疑応答

７．大会宣言・ガンバロー三唱

８．閉　　会

「平成26年度香川県麦づくり推進研修大会」開催要領

１．開催目的

本県産麦については実需者から高く評価されており、その需要に即した麦の生産拡大が図れるよう関係者が一丸となって推進している。特に小麦については、需要量に対する生産量が不足していることから、ますますの作付拡大と安定生産体制を強化していかなければならない。

そのような中、平成25年度においては、大豆・麦等生産体制緊急整備事業を活用した麦作生産体制強化や集落営農化など持続可能な麦作経営に向けた動きの加速など、平成26年播き麦作生産拡大に向けた気運が高まりを見せている。

そこで、県内の麦生産者等を対象に、麦作技術や生産拡大に向けた支援措置等について情報提供を行い、生産拡大とともに、単収増や品質向上を目的とした研修会を開催する。

２．日　時

平成２６年８月４日（月）１３：３０～１６：３０（受け付け開始１２：３０）

３．場　所

丸亀市綾歌総合文化会館「アイレックス」　大ホール
（住所：丸亀市綾歌町栗熊西1680番地　TEL：0877-86-6800）

４．主催等

主催　香川県農業再生協議会
共催　香川県、香川県農業協同組合中央会、香川県農業協同組合、かがわ農産物流通消費推進協議会

５．参集範囲

県内麦生産者・団体、県内実需者団体、地域農業再生協議会、市町、香川県農業共済組合、中国四国農政局高松地域センター、香川県農業会議、農業委員会、香川県農業協同組合、香川県農業協同組合中央会、香川県

６．研修会内容

１）あいさつ
２）平成２５年播き香川県麦作拡大コンクール表彰式
３）平成２６年播き麦の生産振興について（香川県県農業生産流通課）
４）平成２６年播き麦の需給動向及び取組方針について（香川県農業協同組合）
５）麦作の基本技術について　　（香川県農業経営課）
６）基調講演
（講師：香川県製粉製麺協同組合　理事　吉原良一　氏（吉原食糧（株）））
７）大会宣言・ガンバロー三唱

目　次

「平成２６年播き麦の生産振興について」・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

「平成２６年播き麦の需給動向及び生産拡大に向けた取組方針について」・・7

「麦作の基本技術について」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

基調講演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

大会宣言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

平成２５年播き香川県麦作拡大コンクール受賞者一覧・・・・・・・・・・・・・28

平成２６年播き麦の生産振興について

香川県 農政水産部 農業生産流通課

課長補佐　大山 興央

平成 26 年播き麦の生産振興について

平成 25 年度の麦作振興の成果として、
○平成 25 年産の豊作による麦作拡大意欲の向上。
○各種補助事業の活用した機械能力の増強。
など、本県麦作面積拡大に向けた取組を進めてきた。
そして、平成 26 年度からの農政転換へ対応するため
○土地利用型農業の発展を加速する農地集積施策の展開。
○集落営農の組織化に向けた加速的な取組み。
など、安定的な生産体制の強化に向けて、平成26年播き麦の生産拡大を強力に推し進めることとする。

1．25年播き（26年産）麦の生産の状況と課題について

平成26年産麦については、25年産の豊作や各種事業による生産体制の強化により、播種前まで、生産者の作付拡大意欲は高かった。

しかしながら、播種適期の 11 月中旬以降、断続的に降雨が続いたため、播種作業ができず、小麦を中心に播種時期が大幅に遅れるとともに、一部条件が悪いほ地への作付が見送られた。

収穫時期は晴天に恵まれ作業が順調に進んだものの、播種時期の遅れとその後の降雨による生育不良が影響し、はだか麦を中心に収量は前年を大きく下回った。

そこで、27年産に向けては、天候不順に対応した播種計画を進められるよう、**水稲収穫後ただちに排水対策を実施するなど10月中のほ場準備を徹底し、播種適期となる11月上旬からの播種作業を開始する。**

表１　麦の播種時期と単収について（22年～25年播の比較）

区　分	25年播（26年産）		24年播（25年産）		23年播（24年産）		22年播（23年産）	
	11月末進捗率	95％完了期	11月末進捗率	95％完了期	11月末進捗率	95％完了期	11月末進捗率	95％完了期
小麦	43 ％	1月上	81 ％	12月下	67 ％	12月下	81 ％	12月上
単収	322 kg/10a（JA 荷受推定）		375 kg/10a		278 kg/10a		333 kg/10a	
はだか麦	52 ％	1月上	89 ％	12月上	78 ％	12月中	87 ％	12月中
単収	292 kg/10a（JA 荷受推定）		379 kg/10a		280 kg/10a		311 kg/10a	

2. 県産麦の需要動向について

実需者からの平成 27 年産購入希望数量は、小麦 6,561t、はだか麦 1,812tである。(表2)

【はだか麦:イチバンボシ】

実需者から、本県産イチバンボシの品質の良さは評価されているものの、比較的安価な国産二条大麦への需要転換が進んでいること、25 年産の生産量が多かったことにより、27年産の購入希望数量は減少した。

【小麦:さぬきの夢 2009】

国産小麦全体が供給過剰の状態にあり、価格は低下傾向にあるにもかかわらず、26 年産の「さぬきの夢2009」については国産小麦として最高値で取引されている。

依然、本県産の「さぬきの夢2009」については、販売(生産)予定数量に対し、購入希望数量が大きく上回っている状況が続いている。

そこで、実需者の期待に応える産地として、27年産の生産拡大に向け、生産者や関係者が一丸となった取り組みを進めることとする。

表2　実需者からの購入希望数量

	平成 27 年産	平成 26 年産		平成 25 年産	
	購入希望(t)	購入希望(t)	販売予定量(t)	購入希望(t)	販売数量(t)
小麦	6, 561	8, 154	4, 470	8, 080	5, 314
はだか麦	1, 812	2, 041	2, 552	2, 550	3, 280

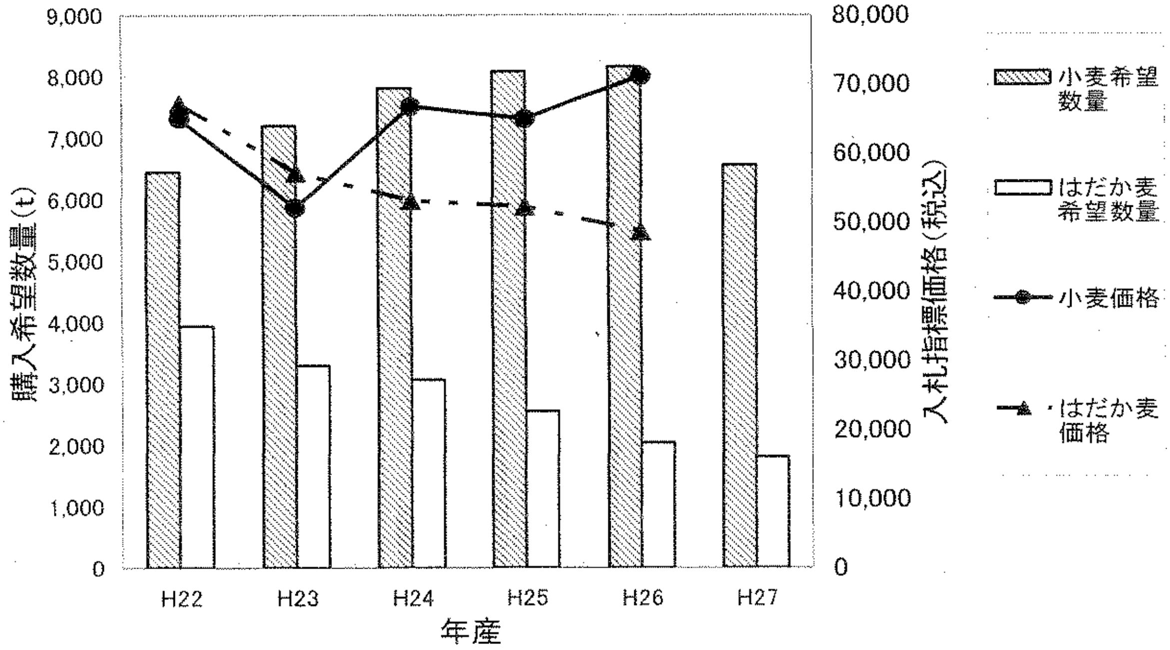


図1　香川県産民間流通麦の購入希望数量と入札価格の暦年推移

3. 26年播き(27年産)麦の生産拡大目標の設定

【小麦:さぬきの夢 2009】

収量性の高い「さぬきの夢 2009」の特徴を活かして、25年産生産量を上回る生産量の確保と、購入希望数量に対応するためにさらなる面積拡大(目標面積 1,750ha)とともに単収向上に向けた取組みを強化する。

【はだか麦:イチバンボシ】

需給状況を考慮して、前年目標と同じ 850ha として設定した。

表3 26年播き(27年産)麦の生産量の目標　　　(単位:t、ha)

区　分	25年産	26年産見込	27年産目標		拡大目標 B－A
	共済引受面積	共済引受面積 A	生産量	目標面積 B	
小　麦	1,478	1,432	**6,300**	**1,750**	318
はだか麦	898	918	**2,600**	**850**	▲68
2麦種計	2,376	2,350	－	**2,600**	－

表4 26年播き(27年産)小麦の地域別生産目標(案)　(単位:t、ha)

地　域	生産量の目標と単収向上効果		作付面積 (ha)			
	最低確保水準 A ＝ ② × 318kg/10a	増産目標水準 B ＝ ② × 360kg/10a	25年産	26年産①	27年産目標②	拡大 ③＝②-①
大　川	620	**700**	159	160	**195**	35
中　央	2,335	**2,645**	641	596	**735**	139
綾　坂	835	**945**	224	216	**262**	46
仲多度	1,215	**1,375**	298	315	**382**	67
三豊・豊南	560	**635**	156	146	**176**	30
県　計	5,565	**6,300**	1,478	1,433	**1,750**	317

但し、①は農業共済引受面積(種子面積込)
　　②は統計面積

4. 麦作の経営メリットについて

①麦は、規模拡大により経営メリットが大きくなる作物である。

水稲と同じ農業機械が活用できるとともに水稲に比べ労働時間が少なく、冬場の農地管理にも有効である。

②生産者の努力が収入に反映される仕組み

経営所得安定対策の畑作物の直接支払交付金の数量払いについては、単収に応じて交付額が増える。

③経営所得安定対策の本県独自の支援

平成 26 年産については、麦担い手加算の充実を図るとともに、小麦は「さぬきの夢 2009」加算を新設し、はだか麦と同水準の収入を確保。

表５　経営所得安定対策による麦の収益性（10a）試算例（単位：円）

区分		小麦			はだか麦	
		25 年産	26 年産		25 年産	26 年産
		平均単収：318kg/10a	平均単収：318kg/10a	平均単収：380kg/10a	平均単収：317kg/10a	平均単収：317kg/10a
販売金額(品代)		20,654	22,630	27,043	16,577	15,441
経営所得安定対策	畑作物の直接支払交付金(数量払)	31,535	31,323	37,430	41,686	40,418
	水田活用の直接支払交付金(麦単作の場合)	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000
	(水田裏の場合)	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
	産地交付金:麦担い手加算	5,000 ➡	6,000	6,000	5,000 ➡	6,000
	産地交付金:さぬきの夢2009加算	― ➡	2,500	2,500	―	―
収入合計	(麦単作の場合)①	92,189	97,453	107,973	98,262	96,859
	(水田裏作の場合)①'	72,189	77,453	87,973	78,262	76,859
経費②		35,363	33,880	33,880	38,367	37,457
所得	(麦単作の場合)①-②	56,826	63,573	74,093	59,895	59,401
	(水田裏作の場合)①'-②	36,826	43,573	54,093	39,895	39,402

※小麦単収　318kg、はだか麦単収317kgは19～25年産(7中5)平均。農林水産省「作物統計」
※販売金額は平成26年産落札指標価格(税込)、平成25年産落札指標価格(税込)から算出。
※数量払の単価;小麦1等Bランク、はだか麦1等Aランクの場合。
※産地交付金:平成26年度見込で算出。麦担い手集積加算は、認定農業者、集落営農、認定就農者で法人格を有する場合で算定。
平成25年度は実績で算出。麦担い手集積加算は、集落営農、認定農業者で法人格を有する場合を想定。
※経費:全算入生産費から家族労働費、自作地地代、自己資本利子を控除。
(26年度;小麦は香川県統計 18～24 年産 7 中 5 平均、はだか麦は全国統計 22～24 年産平均)
(25年度;小麦は香川県統計 17～23 年産 7 中 5 平均、はだか麦は全国統計 21～23 年産平均)

5. 麦づくりを支える各種施策の概要

麦作生産者の安定生産に向けた支援、面積拡大に対する支援、経営体の再編加速化に向けた支援策として、以下のような事業の活用を図る。

1)「さぬきの夢」生産拡大加速化事業(県農業生産流通課、JA 香川県)

県育成品種「さぬきの夢2009」需要の早期確保に向けて安定的な生産を促すため、小麦を8ha を超えて作付けする担い手に対して、8ha を超える作付面積に応じて作付に要する経費の一部として、県と JA が共同で助成する。

【補助率】 定額

10ha 以上　4,500 円/10a （県、JA 香川県各 2,250 円/10a)

8ha～10ha　3,000 円/10a （県、JA 香川県各 1,500 円/10a)

2)かがわの水田有効活用条件整備事業(県農業生産流通課)

認定農業者や営農組織等を対象に、麦の生産拡大や生産性(収量・品質)の向上に必要な営農用機械などの整備に対して支援する。

【補助率】 30%以内、上限 300 万円

【補助対象の営農用機械】 乗用トラクター、コンバインなど

3)攻めの農業実践緊急対策事業(香川県農業再生協議会)

効率的機械利用体系構築事業

担い手への農地の集積・集約化等に必要な農業機械等のリース導入の取組を公募する。

【第 2 回公募締切】9月 16日(火)、

【受付窓口】各地域農業再生協議会

※事業詳細別紙は、「さぬき水田営農だより」特別号(8月 1 日発行)参照。

4)地域を支える集落営農推進強化事業(県農業経営課)

集落での話し合い活動を通じ組織化に向けた合意形成や農業機械等の導入による低コスト化などの「集落営農」への取組を支援する。

※事業詳細は、別紙パンフレット参照。

5)農地集積支援事業(県農業経営課、香川県農地機構)

※事業詳細は、別紙パンフレット参照。

平成２６年播き麦の需給動向及び
生産拡大に向けた取組方針について

香川県農業協同組合 営農部 農産販売課

課長　北岡 泰志

平成２６年播き麦の需給動向及び生産拡大に向けた取組方針について

香川県農業協同組合
営農部農産販売課

１．平成２５年産（２４年播き）の販売状況

（１）さぬきの夢２００９
　　３回の入札価格の事後調整が、販売進度に影響
（２）イチバンボシ
　　国内産二条大麦へのシフトから販売進度は低調、やや需要回復傾向

（表１）平成２５年産民間流通麦の販売状況（７月２５日現在）　　（単位：ｔ、％）

麦　種	契約数量 ①	販売実績 ②	販売進度 ③=②/①	前年販売 実績　④	前年同期 進度　⑤	販売実績対比 ⑥=②－④	販売進度対比 ⑦=③－⑤
さぬきの夢 2009	5,314.1	2,848.2	53.6%	3,097.4	78.6%	▲249.2	▲25.0%
イチバンボシ	3,280.2	1,040.5	31.7%	709.5	29.1%	＋331.0	＋2.6%
２麦合計	8,594.3	3,888.7	45.2%	3,806.9	59.6%	＋81.8	▲14.4%

（注１）ラウンドの関係で合計が一致しない場合がある。

（表２）２５年産小麦の事後調整後の価格推移（実績）　　（単位：円/トン（税抜））

播種前価格/販売期間	25/6～25/9	25/10～26/3	26/4～26/8
61,856	67,856(109.7%)	70,639(114.2%)	70,268（113.6%）

２．平成２６年産（２５年播き）の作付状況について

（表３）２６年産の作付状況　　（単位:ｈａ）

区　　分	２５年播（２６年産） 共済引受面積 （確定）　①	２４年播（２５年産） 共済引受面積 （確定）　②	増減 ③=①－②
さぬきの夢 2009	1,432	1,478	▲46
イチバンボシ	918	898	＋20
２麦種 計	2,350	2,376	▲26

※共済引受面積は、採種ほ場を含む。

（表４）麦の播種時期と単収について（平成２３年播～平成２５年播の比較）

区　分	２５年播（２６年産）		２４年播（２５年産）		２３年播（２４年産）	
	１１月末 進捗率	95% 完了時期	１１月末 進捗率	95% 完了時期	１１月末 進捗率	95% 完了時期
小麦	４３ ％	1月上旬	８１ ％	12月下旬	６７ ％	12月下旬
単収	322 kg/10a（推定）		375 kg/10a		278 kg/10a	
はだか麦	５２ ％	1月上旬	８９ ％	12月上旬	７８ ％	12月中旬
単収	292 kg/10a（推定）		379 kg/10a		280 kg/10a	

３．平成２６年産（２５年播き）の需給と作柄状況

（１）さぬきの夢２００９

大幅な需給ミスマッチ　▲３，６８４ｔ（希望購入数量　＞　集荷数量）

（２）イチバンボシ

需給の逆ミスマッチ　　　＋５１１ｔ（希望購入数量　＜　集荷数量）

（表５）平成２６年産麦の契約と購入希望数量と検査結果　　　　（単位：ha、ｔ）

麦　種	出荷契約時		購入希望数量①	検査数量（推定）			購入比	１等
	面積	契約数量		面積②	集荷数量③	単収③/②	③/①	比率
さぬきの夢2009	1,600	5,280	8,154	1,390	4,470	322kg/10a	54.8%	90.0%
イチバンボシ	800	2,400	2,041	873	2,552	292kg/10a	125.0%	95.0%
計	2,400	7,680	10,195	2,263	7,022	－	68.9%	92.5%

※検査数量欄の面積②は、採種ほ場面積を除く。

※集荷数量③、１等比率は推定重量である。

（表６）２６年産小麦の事後調整後の価格推移（予測）　　　（単位：円/ｔ（税抜））

播種前価格/販売期間	26/6～26/9	26/10～27/3	27/4～27/8
67,776	67,437（99.5%）	未定	未定

４．はだか麦「イチバンボシ」の需給と生産振興

（１）需要の低迷要因

安定供給に欠けるとのことから安価で安定流通が図れる二条大麦への転換

（２）需要回復に向けた取り組みと生産振興

「かがわ農商工連携ファンド」を活用して需要拡大に向け、新たな視点から商品開発を行い、安定した需要と販路開拓を実需者と一体となり取り組みを開始

＋

「イチバンボシ」は本県が誇れるブランド産品であり、麦面積の拡大には播種・収穫作業の平準化から小麦と共に２麦をバランス良く作付することが不可欠

（表７）はだか麦の販売価格の推移　　　　　　　　　（単位：円/ｔ（税抜））

相対基準価格	２２年産	２３年産	２４年産	２５年産	２６年産
香 川 県①	63,979	54,487	50,648	49,803	46,390
全国平均②	58,580	50,277	49,472	49,804	47,291
①÷②	109.2%	108.4%	102.5%	99.9%	98.1%

5. 平成２７年産（２６年播き）麦の需給状況

（１）さぬきの夢２００９
依然需給ミスマッチ　　▲１，６１１ｔ（希望購入数量　＞　販売予定数量）
（２）イチバンボシ
需給の逆ミスマッチ拡大　　＋６１８ｔ（希望購入数量　＜　販売予定数量）

（表８）平成２７年産麦の出荷契約から見た販売予定数量と購入希望数量（単位：ha、ｔ）

麦　種	販売予定		購入希望数量②	ミスマッチ数量 ③=①-②	希望比率 ④=①/②
	出荷契約面積	数量①			
さぬきの夢2009	1,500	4,950	6,561	▲1,611	75.4%
イチバンボシ	800	2,430	1,812	＋618	134.1%
計	2,300	7,380	8,373	▲993	88.1%

※出荷契約面積は、生産者から５月に提出された播種前契約面積である。

6. 平成２７年産（２６年播き）麦の目標面積

（１）さぬきの夢２００９
単年度での需給ミスマッチの解消は困難であるが、面積拡大と単収向上の両面からミスマッチの縮小を図る。
（２）イチバンボシ
生産振興面から現状程度の面積確保を図る。
（なお、作業性に余裕がある場合は、さぬきの夢２００９に麦種転換）

（表９）２７年産（２６年播き）麦の生産量の目標　　　　**（単位：ｔ、ha）**

区分	27年産希望	27年産目標（※）		27年産目標小麦単収UP		27年産目標面積拡大・調整		
	購入数量①	面積	生産量②	生産量③ 360kg/10a	購入乖離 ④=③−①	目標面積	生産量⑤ 360kg/10a	購入乖離 ⑥=⑤−①
小麦	6,561	1,600	5,280	5,760	▲801	1,710	6,150	▲411
はだか麦	1,812	850	2,580	2,580	＋768	800	2,430	＋618
２麦種計	8,373	2,450	7,860	8,340	▲33	2,510	8,580	＋207

※27年産目標における小麦の単収は330k/10aとし、はだか麦は平年単収304kg/10aで算出した。また、目標面積は採種ほ場面積を除く。

（表１０）２７年産（２６年播き）小麦の地域別生産目標　　　　（単位：ｔ、ha）

地　域	作付面積（ha）		
	26 年産①	27 年産目標②	拡大③＝②-①
大　川	159	195	36
中　央	590	735	145
綾　坂	197	262	65
仲多度	298	382	84
三豊・豊南	146	176	30
県　計	1,390	1,750	360

※①は農業共済引受面積（採種ほ場面積を除く）。

※②は統計面積（採種ほ場面積を含む）。

４．平成２７年産（２６年播き）の生産拡大に向けた取組方針について

（１）麦作農業者への支援

①小麦の生産拡大のためのソフト支援事業

事業名	窓口	内　容	助成金額等
「さぬきの夢」生産拡大加速化事業 （県、ＪＡ）	ＪＡ	県育成品種「さぬきの夢 2009」の作付面積が前年実績と比較して、面積維持もしくは拡大しようとする認定農家・認定就農者・集落営農組織で、平成 26 年播き（27 年産）小麦の作付面積に応じて、10ha を超える部分をＡ区分、8ha～10ha 未満分をＢ区分として助成する。	補助率： Ａ区分 4,500 円/10a 以内 Ｂ区分 3,000 円/10ａ以内 （県 1/2、ＪＡ1/2）
経営所得安定対策における産地交付金 （県農業再生協議会） （平成 26 年度）	地域農業再生協議会	・担い手（集落営農、認定農業者）が集積（自作地を含む）した麦作付面積に対して交付。 ・集落営農組織、認定農業者が法人格を有する場合に加算して交付。 ・「さぬきの夢 2009」を作付した場合に加算して交付。 ・新規に麦を生産拡大した面積に対して交付。	交付額：4,000/10a 交付加算額： 2,000/10a 交付加算額： 2,500/10ａ 交付額：11,000 円/10a

②作業効率性や収量性向上のためのハード支援事業

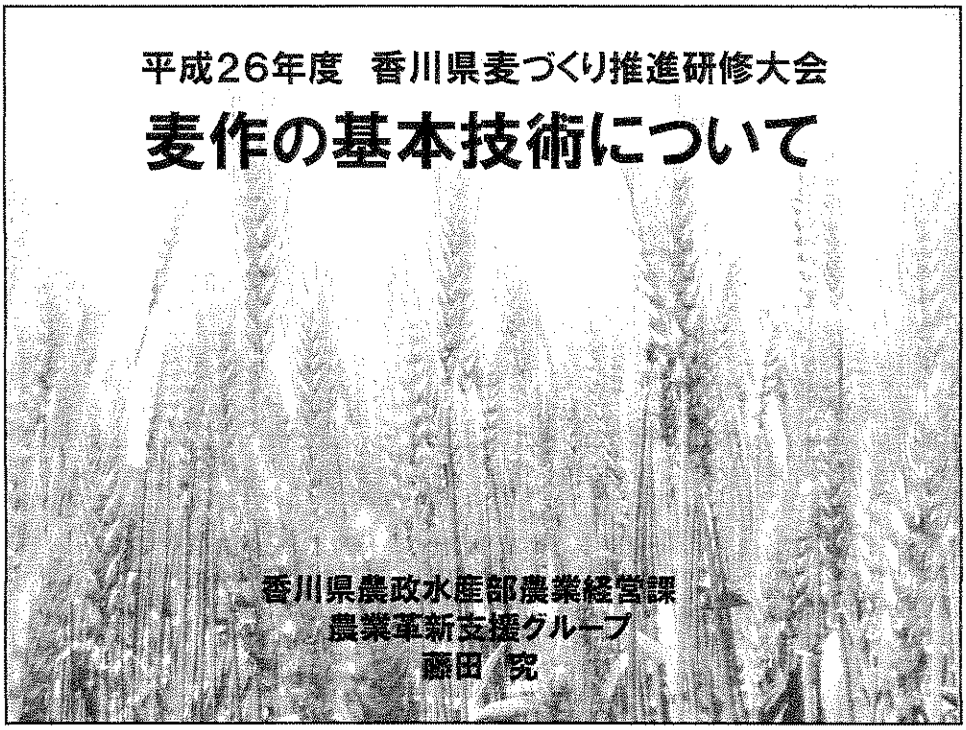
事業名	窓口	内　容	助成金額等
攻めの農業実践緊急対策事業 （1）効率的機械利用体系構築事業	地域農業再生協議会	（1）担い手への農地の集積・集約化に必要な機械・機器のリース導入。 （2）担い手への農地の集積・集約化等により作付け体系の転換等を行う非担い手が所有する機械・機器の廃棄及び当該機械等を担い手が再利用するための補改修。	補助率： 1/2 以内
ＪＡ支援の農業生産法人等経営発展支援事業 （ＪＡ単独）	ＪＡ	ＪＡ香川県が進める１支店１農場構想に基づく特定農業団体や農事組合法人を対象に、米麦生産に必要な農業機械の整備に対して支援する。 ［1 実施主体での１年間の助成上限額 3,000 千円（税抜）］全実施主体の１年間の助成上限額 40,000 千円（税抜）	①事業費が１円～432 万円 補助率 20%以内 ②事業費が 432 万円を超える部分 補助率 30%以内

以上

麦作の基本技術について

香川県 農政水産部 農業経営課

課長補佐　藤田　究



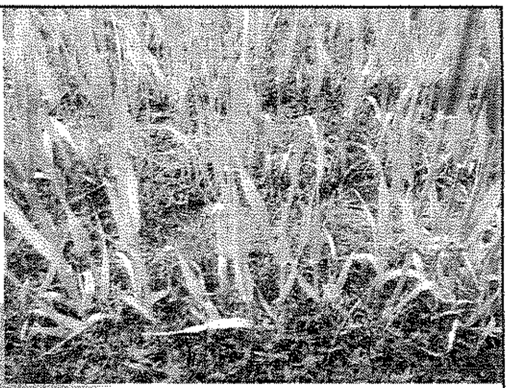
土づくり

近年、麦の生育不良ほ地が増加

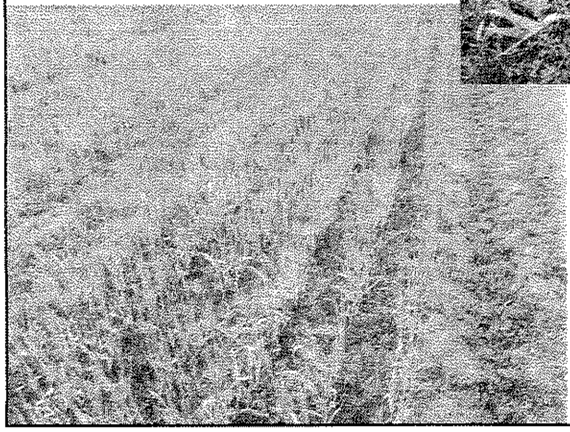
＜原因＞
①pH低下による酸性障害
②微量要素欠乏（過剰）による生理障害

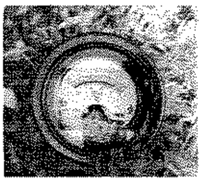
＜対策＞
①苦土石灰の施用
②ケイカル等の土づくり肥料の施用

pH低下による酸性障害



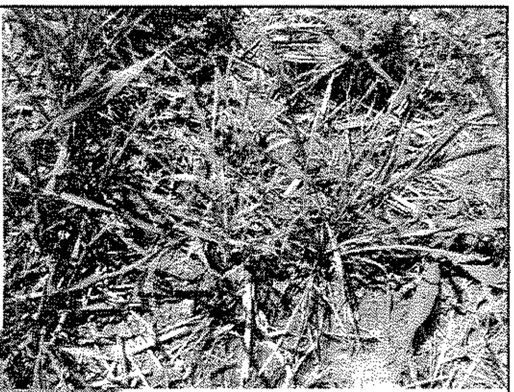
pH5以下で生育障害が顕著
特にはだか麦で発生しやすい。
→アルカリ資材で酸度矯正する。
pH6～6.5が望ましい。



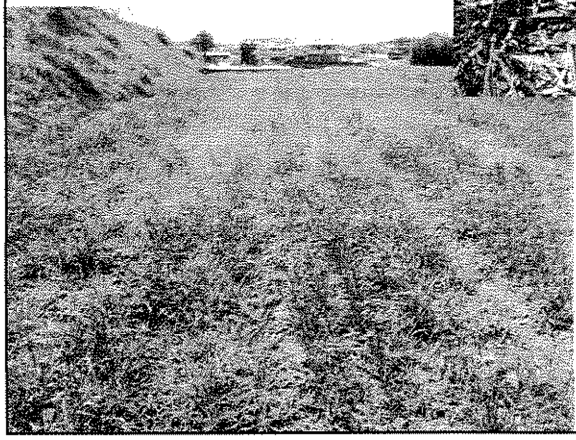


土壌挿入型酸度計（pH計）
はpH4.5を示している。

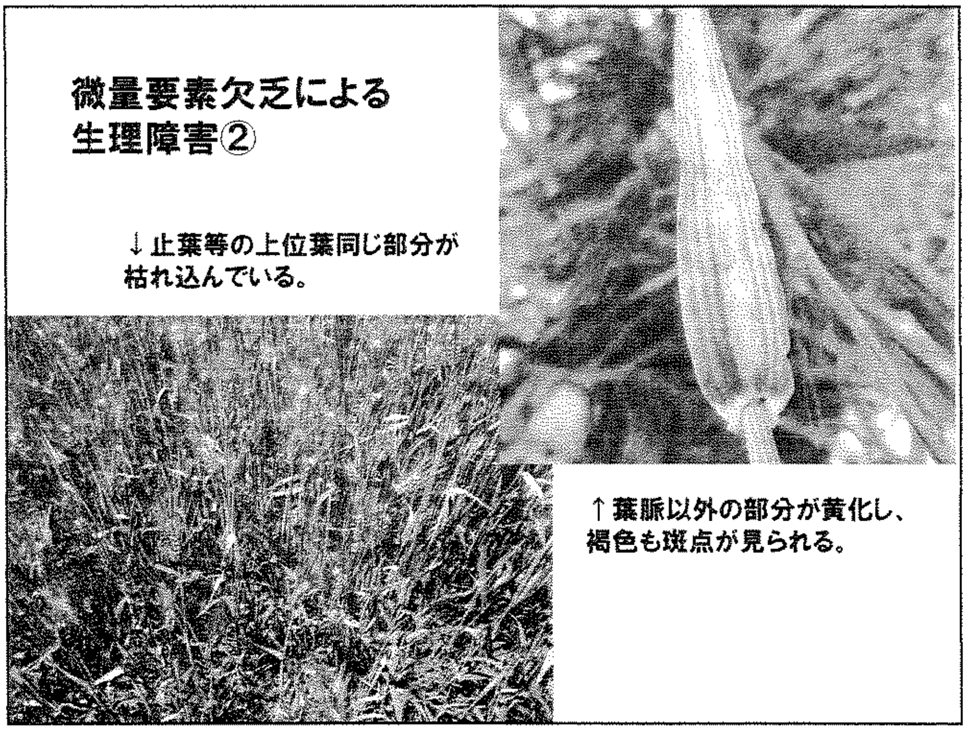
微量要素欠乏による生理障害①

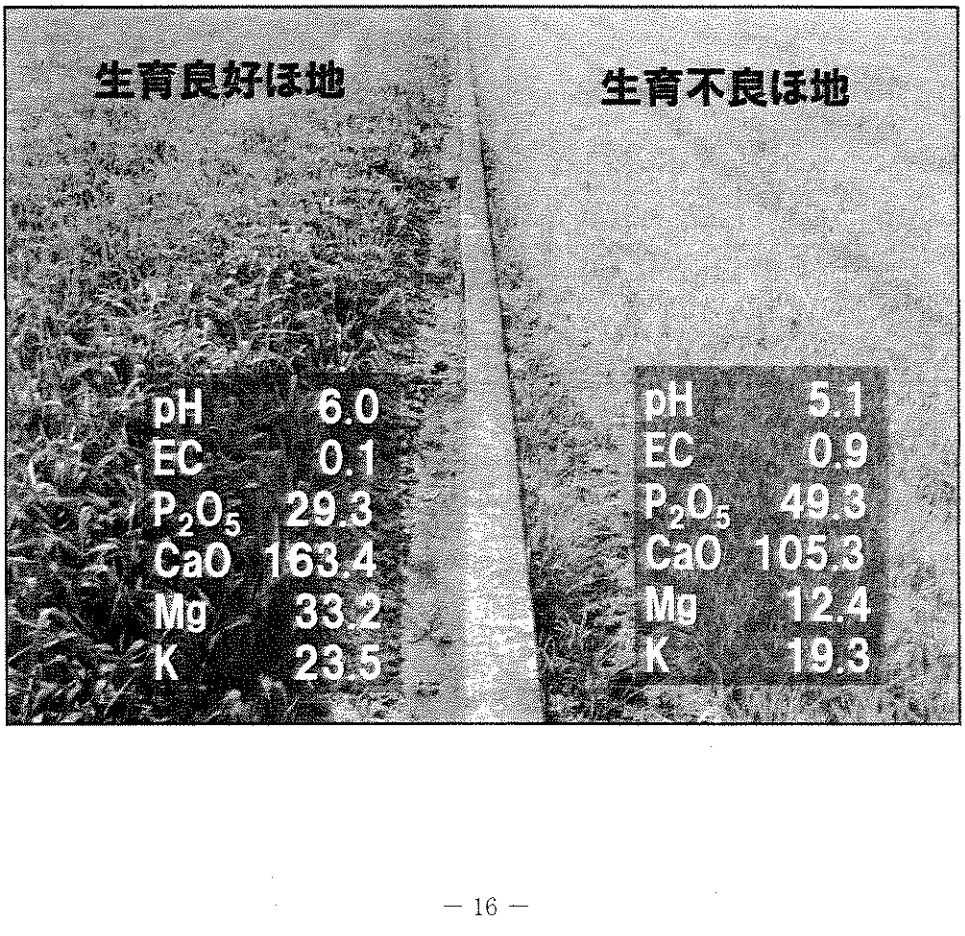


↑株全体の生育が不良で、特に新葉部分が黄化する。



←ほ場全体に生育ムラがみられ、モザイク状に黄化が見られる。


微量要素欠乏による
生理障害②
↓止葉等の上位葉同じ部分が
枯れ込んでいる。
↑葉脈以外の部分が黄化し、
褐色も斑点が見られる。

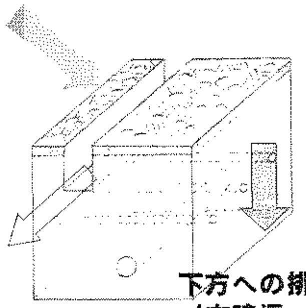

生育良好ほ地
pH 6.0
EC 0.1
P_2O_5 29.3
CaO 163.4
Mg 33.2
K 23.5
生育不良ほ地
pH 5.1
EC 0.9
P_2O_5 49.3
CaO 105.3
Mg 12.4
K 19.3

排水対策

①播種前対策（適期播種のために重要）
・本暗渠
・弾丸暗渠
・明渠やヨケの設置

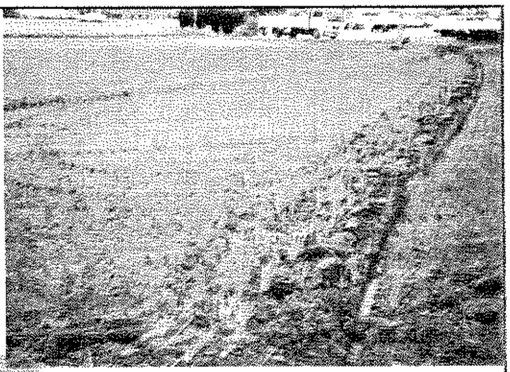
②播種時、播種直後対策
・ほ場周囲にヨケを設置
・畦立て栽培法（1行程毎に溝）
・排水溝を落水口まで連結

③生育中の対策
・土入れ
・排水溝の整備

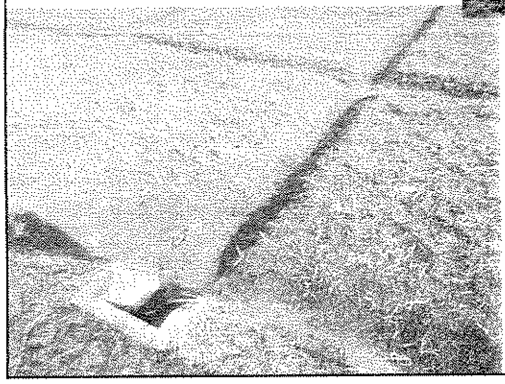


排水対策の事例紹介①

播種前の排水対策
あらかじめ明渠を設置→



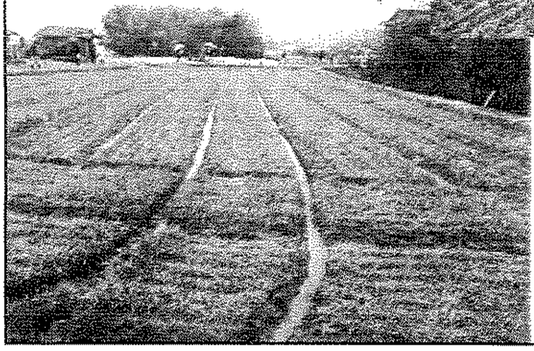
播種直後の排水対策
畦の溝と排水口へ溝を確実に
連結する。↓



↑枕地部分の溝さらえ

排水対策の事例紹介②

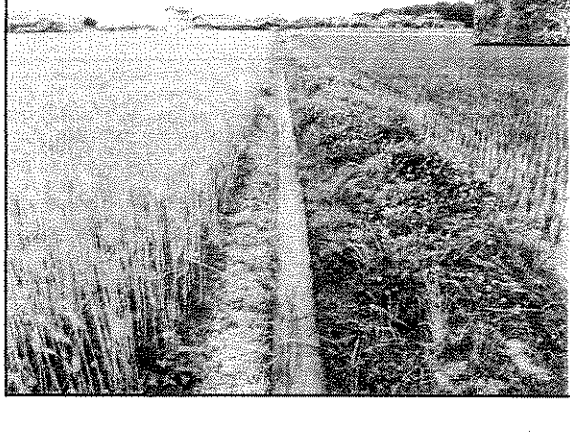
<u>播種時の排水対策</u>
1行程毎に溝をつける
畦立て栽培法　→



←畦立て栽培法では排水溝に水がたまり、湿害を受けにくい。

排水対策の事例紹介③

<u>生育中の排水対策</u>　→
生育期の土入れ作業
土入れ効果：①排水性向上、②雑草防除、③追肥効果の向上（追肥後の場合）が期待できる。



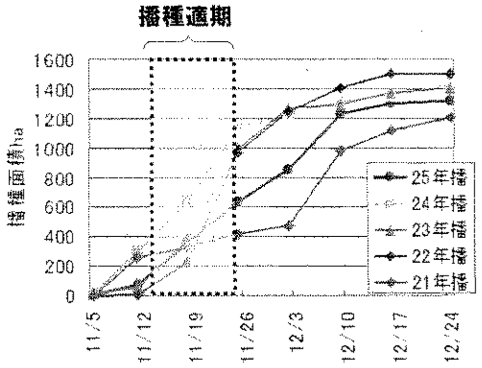
←水田からの水の流入をヨケで防止

適期播種

近年は播種適期の降雨により、播種が遅くなる傾向がある。
↓
播種早限になり、土壌水分が適正になったら、すぐに播種作業を開始して下さい。

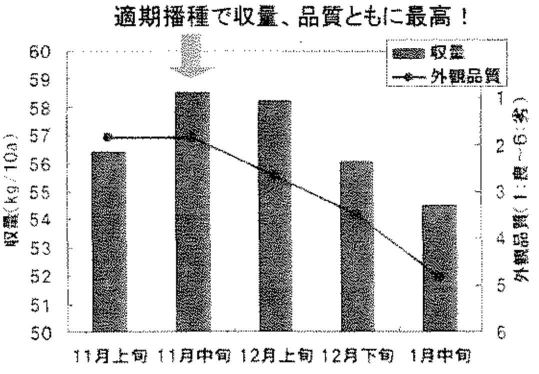
小麦、はだか麦ともに

播種早限
→<u>11月10日</u>
播種適期
→<u>11月15～25日</u>



小麦播種の進捗状況

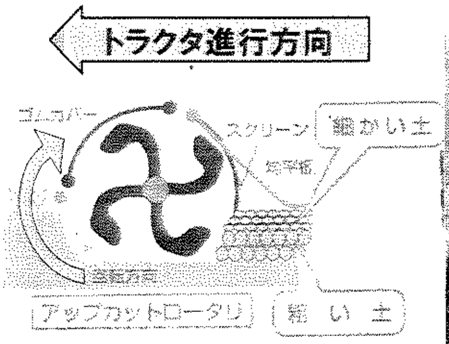
適期播種で最多収となり、播種が遅れるほど収量、品質ともに低下しやすくなる。



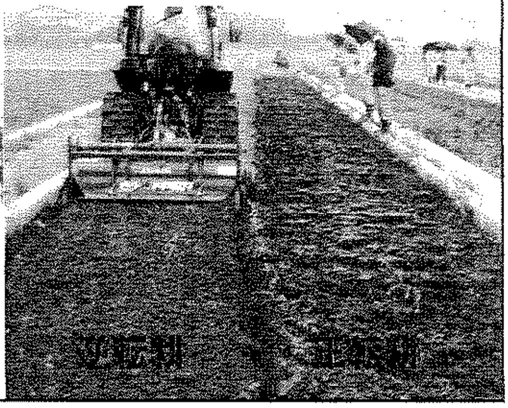
「さぬきの夢2009」の播種期と収量及び外観品質
（平成22～24年播の3ヵ年平均、農業試験場）

小麦は12月中旬以降、はだか麦は12月末以降になると収量が下がるので注意が必要！

土壌水分がやや高くても播種できる技術
↓
逆転耕畦立てドリル播栽培
（改良型アップカットロータリ）

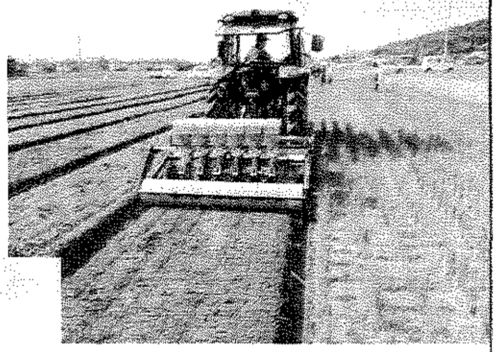


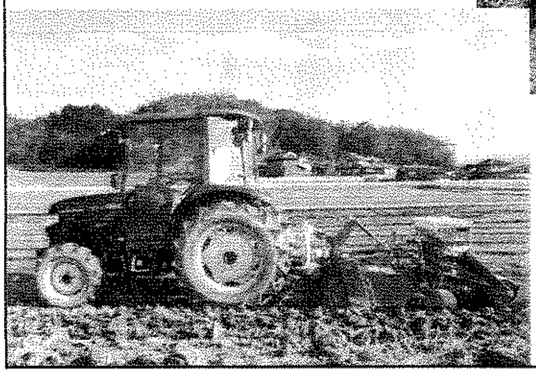
寒冷地2年3作水田輪作地帯技術マニュアルより



逆転耕畦立てドリル播の特長と留意点

1回耕でも砕土や稲株の鋤込み精度が良いので、すぐ播種できる→





←プラソイラ等で事前耕をすると、トラクタの負荷は少なくなる。

＜留意点＞
<u>ロータリの角度が重要！</u>
取り付けヒッチが地面に対して垂直になるようトップリンクを調節すること。

まとめ

①土づくりを行いましょう！

pH低下や微量要素の欠乏による生育障害が現れたら
土づくり肥料（苦土石灰等）を施用。

②排水対策を万全に！

播種前：適期に播種できるようヨケや排水溝の設置
播種時：１行程毎に溝がつく畦立て栽培法
播種後：排水溝を落水口へ確実に連結
生育中：土入れの実施

③適期に播種しましょう！

播種早限に土壌水分が適正になったら播種作業を開始
播種適期11月15～25日を播種ピークに！

基調講演

全国へ広がる“さぬきの夢”小麦粉。その新しい“食と健康”の世界

香川県製粉製麺協同組合

理事　吉原　良一

＜講師プロフィール＞

講師氏名　　吉原良一　様

【御略歴】

・昭和 32 年生まれ（57 歳）

・広島大学工学部　　電気工学課　システム工学課程卒業

・昭和 56 年　　(株)東芝入社　　コンピュータ事業部　応用ソフトウェア部配属

・昭和 61 年　　吉原食糧(株)　入社

・平成 21 年　　代表取締役　社長に就任

【現役職】

・香川県製粉製麺協同組合　理事

・全国製粉協議会　常任理事

・坂出間税会　会長

・香川県産業技術センター　食品研究会　副会長

・かがわ機能性食品等開発研究会　副会長

・香川県産業技術センター　研究テーマ外部評価委員

【著作、その他】

①平成 16 年 7 月 NHK(TV)番組「プロジェクトX　～さぬきうどん　至高のうまさとは～」において、香川県産小麦「さぬきの夢 2000」の開発で吉原良一の取組みが紹介された。
書籍：　プロジェクトX　(NHK 出版)にも掲載

②　著作・出版：「だから さぬきうどんは旨い　～よくわかる小麦粉の話　うどんの話～」
(株) 旭屋出版　（平成 21 年 6 月 28 日初版）
（平成 24 年 11 月 27 日増刷）

③　共著・出版：「とびきりのフランス菓子」(株) 旭屋出版　（平成 24 年 3 月 2 日初版）

=-=

【吉原食糧株式会社】

1．創業：　明治 35 年（H26.7 月現在、創業 112 年）

2．営業内容：　製粉業、倉庫業

3．資本金：4,000 万円、売上高：約 15 億円(平成 26 年 3 月期)

【受賞歴（吉原食糧株式会社)】

・平成 20 年 11 月　坂出税務署長表彰

・平成 20 年 11 月　食品産業技術功労賞（食品産業新聞社）　「ハイブリッド小麦粉の開発」

・平成 24 年 3 月　四国産業技術賞（四国産業技術振興センター）
「ぎゅっとポリフェ」　ポリフェノール含量が高い健康志向の小麦粉

平成26年度香川県麦づくり推進研修大会

平成26年8月4日
〒762-0012 香川県坂出市林田町 4285-152
吉原食糧株式会社
Tel:0877-47-2030
Fax:0877-47-1910
http://www.flour-net.com/
代表取締役　吉原良一

全国へ広がる"さぬきの夢"小麦粉。その新しい"食と健康"の世界

1．なぜ　さぬきうどんはこれほど全国で人気を得たのか

① ＡＳＷ（オーストラリア産小麦）と国内産小麦
～なぜ　ASWは日本のうどん原料を席捲したのか～

② さぬきうどんと香川県産小麦
製麺所のうどん飲食誕生 ⇒ 大阪万博 ⇒ セルフの誕生 ⇒ 現代版カジュアル・セルフ業態 ⇒ 現代版「製麺所」スタイル ⇒ ファスト・カジュアル的業態と旧来業態との混在

③ 平成15年「さぬきうどんブーム」の根底にあるもの
・その後の「日本の麺」市場の転換

・何が"ブーム"を引き起こし、日本の麺市場を変えたのか

・さぬきの夢2000登場の意味

2．さぬきの夢2000誕生

① 誕生前夜

② 議論沸騰の会議

③ さぬきの夢2000の飛翔

④ さぬきの夢2000から２００９へ

3．全国の国内産小麦の情勢

① 生産状況

② 小麦品種間の市場競争の激化

4.「さぬきの夢」小麦の可能性

① さぬきうどんの原材料としての「優れた小麦粉特性」と
「讃岐の食文化への新たな役割」

② うどん以外の用途の拡大

- 菓子：バームクーヘン、生ケーキ、サブレ等
- パンへの配合（新食感）
- 中華めん（新食感）

③ 健康機能性（小麦ポリフェノール）：小麦粉製品「ぎゅっとポリフェ」

④ 麺・新感覚時代の到来と、さぬきの夢の可能性

- 広がる「食感・食味」の嗜好の幅
  ⇒ 麺質・新世紀へ
- まだまだ伸びる麺市場
  ⇒ 10～40 歳代の麺消費がこの 10 年間、伸びているという事実

5. これからの「さぬきの夢」への期待と、必要なこと

① 香川県産小麦は記録が残っているだけで、1200 年に及ぶ作付の歴史がある。また、現代の日本において、うどん用小麦として最高の価値を持つと認められていることに小麦生産者も実需者（製粉企業）も、感謝の念と自負を持つ必要があるのでは。
⇒ 自負を持つということは、価値を持ち続けるために不断の努力をするということである。

② 小麦生産者と実需者（製粉企業）は、一層の結びつきを強くし、更なる信頼関係を作り、良い時も厳しい時も一体としての強さを発揮する「連携」が不可欠である。
（今後の輸入・国内産小麦市場は相当厳しくなると予想されるため。）

③ 「現状維持」は「衰退」を意味する、という意識が必要である。
⇒ 生産者：「小麦の品質維持」「堅実な小麦の生産拡大」への努力
実需者：「小麦粉・2 次加工品に有形・無形の新しい価値を開発し市場に広げる」

④ “もの作り”には、「情熱」と「勢い」の持続が不可欠である。麦つくりも、粉つくりも同じ。

大 会 宣 言

私たちは、麦づくりを郷土香川の誇りとし、面積の拡大、単収や品質の向上による生産拡大を進め、経営の発展を図るとともに、麦づくりを通じて地域の農業振興にも貢献していきます。

平成２６年８月４日

平成２６年度香川県麦づくり推進研修大会

平成２５年播き香川県麦作拡大コンクール受賞者一覧

個人の部

最優秀賞　三好　　満　様

優秀賞　小林　康則　様

優秀賞　川染　常男　様

生産集団の部

最優秀賞　農事組合法人　六郷　様

優秀賞　農事組合法人　ファーム鉢伏　様

優秀賞　まゆみ農事組合法人　様

一支店一農場の部

最優秀賞　豊田地区営農生産組合　様

優秀賞　琴平町営農組合　様

優秀賞　農事組合法人　アグリカワツ　様